

平成16年度第7回理事会

日 時 平成16年10月29日（金）13：30～

場 所 特別会議室

議 題

- 1 監事監査報告について
- 2 政策評価・独立行政法人評価委員会 独立行政法人評価分科会ワーキンググループヒヤリング概要報告について
- 3 役員給与規程第4条2項に係る平成16年度の取扱いについて
- 4 平成16年度研究職員の昇格について
- 5 その他

資 料

- 1 監事監査報告書
- 2 役員給与規程第4条2項に係る平成16年度の取扱いについて
- 3 平成16年度研究職員の昇格について
- 4 平成16年度森林総合研究所研究成果発表会についての報告

平成16年9月3日

独立行政法人 森林総合研究所

理事長 田中 潔 殿

独立行政法人 森林総合研究所

監事 今村 清光



監事 井上 敏雄



監事監査報告書

監事監査規程第7条第1項及び監事監査実施要領第7に基づき、下記により平成16年度監事監査（領域長監査）の結果をまとめたので報告する。

記

1. 被監査部門名 研究領域長 23名（15年度12名）、（16年度11名）
2. 定期監査・臨時監査の別 定期監査
3. 監査の事項
 - 独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第30条に規定する中期計画その他重要施策の実施状況
 - 独立行政法人森林総合研究所法（平成11年法律第198号）第3条に規定する目的に対する業務の運営状況
 - 組織及び人事管理の状況
 - 研究領域における管理運営について
4. 監査対象期間 平成14、15年度
5. 監査日程 ※別紙 日程表
 - （15年度）平成15年11月14日、21日、12月5日、12日
 - （16年度）平成16年 6月 4日、11日、 7月2日、 9日、8月6日
6. 監査の方法 書面監査及び実地監査
7. 監査担当者の氏名 監事 今村 清光
監事 井上 敏雄
(補佐職員：監査室長、監査係長)
8. 監査実施結果の概要

各研究領域の領域長に対し上記監査事項について個別の聞き取りによって監

査を実施した。各研究領域とも中期研究計画に基づいた研究実施状況はおおむね順調で、また業務運営についてもほぼ適切に行われている。しかしながら、研究所の役割をより効果的に果たしていくために以下の事項について検討が望まれる。

(1) 行政等のニーズを踏まえた総合化研究の強化が求められているなかで、多くの領域では研究管理官との連携のもと横断的研究体制のメリットを活かしたプロジェクト等の企画立案を積極的に進めている努力は評価されるが、領域によっては必ずしもそうした努力が十分といえない面も見られる。

外部資金の導入を推進するためにも、外部のニーズを的確に把握し、他領域との共同体制のもとで総合化を目指した研究の企画立案へ向けて努力を傾注する必要がある。

(2) 各研究領域とも多くの優れた成果を創出しており、それらの成果の活用を積極的に推進することが重要である。このため行政や産業界との連携を一層密にし、成果の実用化に向けて積極的に協力・支援する方策・仕組みを検討する必要がある。

(3) 海外研究領域は研究の実行部隊の多くを他の領域に依存している点で性格が大きく異なり、現状では外部からは分かりにくい領域である。

海外研究に対するニーズは今後も一層大きくなると考えられることから、研究の組織体制の将来方向を検討する必要がある。

(4) 人事管理に関しては、各領域長とも苦労が大きく、特に支所に関係部門を持つ領域では、人材配置の本支所間のバランスや人材育成等について将来的に不安感を抱いている。本支所体制の維持の面からも中・長期的な人事管理構想を明確にしておく必要がある。

(5) 諸会議の決定事項等の内容について速やかに且つ正確に領域、研究室等へ伝達することは所の業務運営上重要である。伝達内容について齟齬のないように配慮する必要がある。

資料 2

理 事 会 資 料
平成16年10月29日
職 員 課

役員給与規程第4条第2項に係る平成16年度の取り扱いについて

＜条項抜粋＞

前項の常勤役員の俸給の月額は、役員の業績等を考慮して定めるものとする。

平成15年度独立行政法人評価委員会の機関評価は、Aとされたところである。

平成16年度における第4条第2項の取り扱いについては、評価の内容は、年度計画を適切に実施した旨の評価であることもあり、前年度の取り扱い及び賃金を巡る厳しい状況を踏まえ、給与の増減に加味しないこととしたい。

平成 1 6 年度研究職員の昇格について

- (1) 平成 1 6 年度研究職員の昇格については、当所における昇格対象者の状況、人事院における昇格の考え方等を踏まえ、平成 1 6 年 8 月 2 0 日に理事長が研究職員昇格に対する基本方針を定め、具体的な昇格者の選定に着手した。
- (2) 1 0 月 2 2 日に研究職員格付選考会議を開催して、学歴年次、在級（3 級は経験年数）、号俸等の昇格基準に基づくほか、候補者別研究職員昇格申請書での業績数・業績内容及び適性等を総合判断のうえ、昇格者の推薦名簿を決定し、理事長に答申した。
- (3) 理事長の決裁後、1 0 月 2 9 日に昇格辞令の交付、1 1 月俸給日に差額を支給する予定とした。

昇格結果は、下表のとおりである。

俸給表	職 名	昇格級	昇格者数
研究職員	部長・室長 等研究員	5	1 1
		4	1 7
		3	2 7
	計		5 5

16.10.29

研究情報科

平成16年度 森林総合研究所 研究成果発表会についての報告

全体テーマ「日本の生物多様性保全研究の現状とこれから」、サブテーマ「里山のオオタカ、大台ヶ原のシカ、固有種の島小笠原での研究成果」と題する研究成果発表会が、平成16年10月19日、午後1時20～4時30分、イイノホールで開かれました。

講演プログラム

- ①「孤立、断片化した里山の保全を考えるー石狩平野での鳥、昆虫、植物の多様性から見た功罪」
尾崎研一（北海道支所・チーム長）
- ②「シカの個体数管理から森林生態系管理へー大台ヶ原自然再生のために」
日野輝明（関西支所・チーム長）
- ③「小笠原の自然を蝕む外来生物の脅威と対策」
大河内勇（森林昆虫研究領域・チーム長）

講演終了後には、総合討論が行われましたが、それぞれの地域での生物多様性保全対策や生物多様性の評価などについて質問が出され、それについて各発表者から回答や意見が出されました。また、発表会終了後、参加者に尋ねたところ、発表内容は大変充実したものであったという感想が多く出されました。

参加者は、198名で内訳は以下のとおりです。

職員	43	
OB	12	
大学・専門学校	16	
農水省（技会・林野・森林管理局）	25	
環境省	11	
県（県庁・試験場）	20	
（北海道・東京・栃木・福島・千葉・鳥取・静岡・宮城・広島・埼玉・神奈川・徳島）		
独法	2	環境研・緑資源機構
法人	20	
マスコミ	3	林経新聞・環境新聞・林材新聞
民間企業	23	
一般	13	
その他	10	NGO団体など

*別紙に平成元年から15年度までの参加人数一覧を添付しています。

担当：研究情報科広報係 椎木・村田
(内) 227

森林総合研究所研究成果発表会出席者数

平成元年から平成15年まで

(単位：人)

	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	平均
林 野 庁	9	16	10	10	15	18	13	12	7	24	9	18	9	17	36	15
技 会 他	3	6	4	0	2	5	5	6	3	11	6	2	9	6	7	5
都 道 府 県	28	34	28	24	31	36	45	23	43	57	43	39	57	43	40	38
大 学	14	19	16	0	2	18	8	7	7	16	20	12	13	11	20	12
民 間	26	59	47	24	57	91	125	91	78	178	79	62	73	132	100	81
小 計	80	134	105	58	107	168	196	139	138	286	157	133	161	209	203	152
森 林 総 研	61	56	69	52	43	52	41	43	48	56	44	37	71	44	67	52
合 計	141	190	174	110	150	220	237	182	186	342	201	170	232	253	270	204